

アンケート集計結果より

横浜市史資料室では、昨年の夏展示会と展示関連シンポジウムを企画・開催しました。ここでは、会場で実施しましたアンケートの集計結果と皆さまからお寄せいただいた感想・ご意見などの一部を紹介いたします。

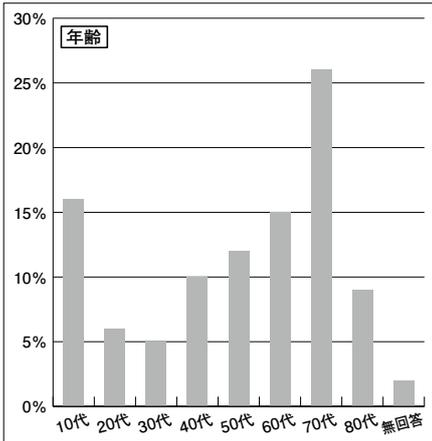
〔平成二七年度展示会〕

戦後70年 戦争を知る、伝える「横浜の戦争と戦後」 担当 羽田 博昭

平成二七年七月二八日(土)～九月三日(木)

横浜市では昭和50年代に『横浜の空襲と戦災』を編集・発行した際に、多くの資料を収集しました。それらは現在、横浜市史資料室が所蔵しています。その後も空襲の体験記や戦中・戦後の暮らしに関わる様々な資料などが多くの市民から寄せられ、資料は増え続けています。展示会では、市民から提供、寄贈された資料を中心に、そこから見えてくる戦争の現実を浮き彫りにしました。

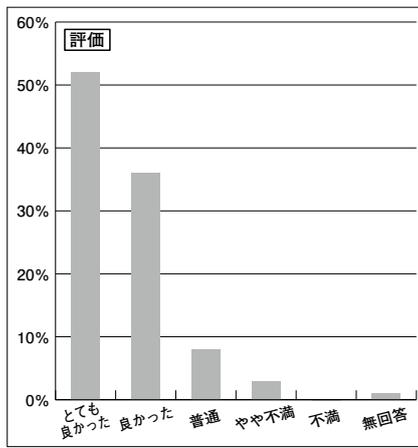
・入場者八七六名 回答者数三二〇名
・男性六二％女性三三％



・見学者層は七〇代が二六％、次いで二〇代二六％、六〇代の二五％でした。

・横浜市内からの見学が九三％でその内訳は南区が二四％、中区二％、保土ヶ谷区二〇％でした。

・見学に来られた動機は、「タイトルにひかれて」三三％、「横浜の近現代史に興味があるから」二四％、中央図書館来館中に「たまたま開催されていた」二五％でした。



・展示の評価は「とてもよかった」五二％、「よかった」三六％と好評でした。

〔ご感想より〕

一〇代

・戦争の話というと僕らの時代には遠い話だが、今生活している所でも被害があったのだと思うとぐっと近くに感じられた。

・歴史の授業で習った「マッカーサー」その人を持つ人の写真がみるのができて、とても驚きました。とても昔の話なのかと聞いていたからです。音楽に興味があるので、「あ、モンテパルバ夜は更けて」という唄を聞いてみたいと思いました。

・資料をみて戦争はこわいと思った。

二〇代

・当人の日記や当時のことをつづった資料は、とても考えさせられる。もつとそのよな資料を増やすといいと思う。

・家族から当時の話しは聴けるけれども、実際の風景等を知れたのはとても勉強になりました。

三〇代～四〇代

・戦後70年経ち、戦争を語り継ぐのがとても難しくなったと思いますが、写真や絵を見ると、これは現実起こったこと・・・と思い知らされました。私たちの住む横浜が、戦争をどのように乗り越えてきたかとてもよくわかりました。

・横浜の戦争の被害について、全くわかっていなかったと実感した。

・市民の資料が体系的に二つの意味を持たせて展示されていてとても面白く、一つ一つの資料が重い意味を伝えている展示でした。
・観光都市のイメージだが、忘れてはいけない時代の記録をこれからも伝えていって下さい。戦争は絶対にダメだ！



展示風景

五〇代～六〇代

・生活者目線での戦争がよくわかる展示だと思えます。

・伝えていかないと、子供達には戦争はどんどん遠く、関係ないものになっていってしまう。

・どれも貴重な資料でした。文字が大きいく読み易かった。熱心に見ている人が多かったが、私のいる間には若い人や子供がいなかったのが残念。

・シンプルな展示だが、ストレートに気持ちが伝わった。

・親や祖父母から、戦中・戦後の暮らしについて時折聞いた事があるが、子や孫に話したことはない、反省しています。

・体験談や写真は歴史書やジャーナリズムの記事等ではなかなか触れられない事柄です。

・常設で展示して欲しい。子ども達にも見せたい。

・この時代を生きた方々の想いを考えると涙が出ました。

七〇代～八〇代

・終戦前後の事が思い出される。

・戦争を知る年代層も80才以上、現代の子供達にもっと知らせたい。やっと教科書で近・現代史を教えるようになったが、今からでも遅くない子供達に戦争の悲劇を知らせたい。

・空襲を体験した二人として、二度と戦争をしてはいけないと痛感しました。

・今後継続して記録を残し展示してほしい。
・体験者がどんどん少なくなっている。こういう資料を集め、語りつぎ、次の世代

に正しく伝えることの難しさと大切さを感じます。

〈特に関心を持った資料〉

- ・空襲の体験記
 - ・白木さんの体験記、横山さんのスケッチ
- 今回絵で表現されているものに心を動かされた。絵だと自分の受けとめたものだけが表現されるから、よりストレートに訴えてくると思った。

- ・疎開先や竹槍訓練の様子
 - ・空襲の写真
 - ・カラーで甦る戦後の横浜
- あまりにも鮮やかで戦後の横浜がとても身近に迫ってきた。おどろいた。

〈ご要望・ご意見〉

有料で良いから出版物として刊行してほしい。／子供向けに展示を工夫してほしい。／この後どのように復興していったのか戦後の歩みをみせてほしい。七〇年間の歴史をみたい。／図書館等で巡回展をしてほしい。等のご要望がありました。

・展示パネルの位置が高い。／展示物の文字体が見にくい／もっと広報をおこなってほしいなどのご意見がありました。

シンポジウム

空襲の記録・証言・写真・米軍資料

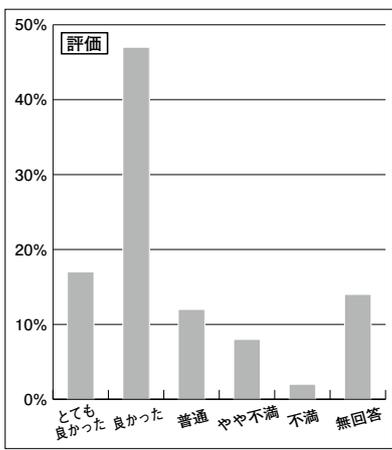
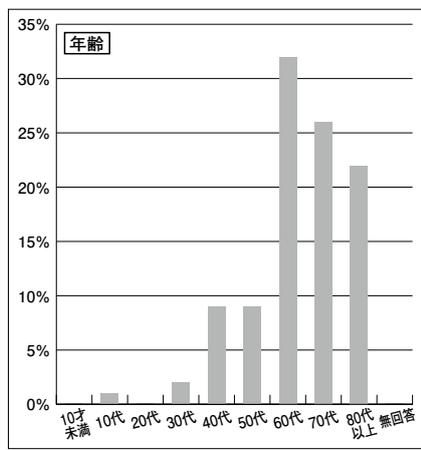
平成二七年八月二十九日(土) 午後一時～

第一部 報告

- 日米の記録と体験記・証言 羽田博昭 横浜市史料室主任調査研究員
 - 空襲記録としての写真 山辺昌彦氏(東京大空襲・戦災資料センター主任研究員)
 - 第二部 パネルディスプレイセッション
- 体験者の証言と記録・資料

空襲体験者から 小野静枝氏、福井経正氏
報告者から 山辺昌彦氏、羽田博昭

- 司会 平野正裕(横浜市史料室主任研究員)
- ・参加二三名 アンケート回答者九二名
- ・男性六二%女性三五%
- ・年代は、六〇代、三三%、七〇代二六% 八〇代以上が二%でした。



・参加者の居住地は、横浜市内八六%次いで神奈川県内八%でした。

・参加動機は戦争や空襲の記録に関心がある四〇%、体験記談)に関心がある三三%横浜の近現代史に興味・関心がある二二%でした。

・評価は、とてもよかった二七%、よかった四七%、普通二二%やや不満八%不満は二%でした。

〈ご感想より〉

- ・戦時中のスケッチ・東京大空襲・戦時の写真がみられてよかった。
- ・写真に加えて体験者から話を聞くことによつて戦争の実態が良く理解できた。
- ・体験談を聞いて衝撃を受けた。語り継ぐこと、記録すること、正しく知ることの大切さを知りました。
- ・小中高生への横浜空襲の証言を伝える場を検討してほしいです。
- ・当時を思い出すことが沢山あり、戦争をしてはならない事を改めて考えました。
- ・空襲の記録については、これからの世代のためぜひしっかり残してほしい。このような機会を継続して企画してほしい。
- ・写真や資料収集の経緯の説明と同時にもう少し資料・写真を具体的に提示して説明して欲しかった。
- ・第一部の空襲の記録の現状は何を伝えたいのか、もう一つ感じられなかった。
- ・空襲というテーマは良いがややばらけていた。戦後七〇年以降何を軸にするかに主軸を絞ったほうがよい。
- ・体験談はデジタルアーカイブとして残してほしい。
- ・戦争を知らない世代に引継ぐためのシンポジウムに若い世代の参加者が少ない。
- ・一般向けのシンポジウムだと思つて来たが学術的色彩が濃く(特に一部)がっかりした。第一部は口頭での説明が多く飽きました。
- ・常設展示される資料館を設置してほしい。

いと思います。

〈ご意見より〉

- ・照明が暗くレジユメを見ることができずストレスを感じた。(同様六件)／プロジェクターが活用されていない。(同様二件)
- ／説明者の話し方、進行の時間配分等についてもご指摘がありました。

〈まとめ〉

今回の展示会では、会期前半は、学校の課題や自由研究のテーマとして、多くの子供たちが見学し、アンケートにも回答を寄せてくれました。九月には、新聞各社に展示紹介記事が掲載されました。また、法案決議をめぐる社会情勢もあり「戦争」についてはより一層関心呼び、多くの方に見学していただきました。

シンポジウムでは、テーマが伝わりにくかったため、やや不満と不満との回答が全体の二〇%でした。しかし、「資料がきちんと収集保管されていて安心した」、「戦後七〇年の節目にシンポジウムを開催したことが有意義だった」、「毎年何らかの形でこういった展示やシンポジウムを開催して欲しい」と言う要望もいただき、六〇%以上の方から良かったと評価していただきました。アンケートの回答にご協力していただいた皆様のご意見等を今後の展示などに生かしてまいります。

なお、シンポジウムの内容は平成二八年三月末に横浜市史料室紀要第六号に特集として掲載されます。展示会の内容は報告書として二九年三月末に刊行される予定です。

(川原照美)

開架資料紹介
横浜空襲・戦災誌編集委員会
『調査概報』

横浜市から『横浜の空襲と戦災』編集を委託された横浜の空襲を記録する会では、編集の実務を担当するため、新たに専門家も交えて横浜空襲・戦災誌編集委員会を組織した。

そして、同編集委員会は、『横浜の空襲と戦災』全六冊の刊行と並行して、その補遺として『調査概報』第一集（第九集（一九七四年～一九七七年）を刊行した。部内資料として刊行されたためか、内容についてあまり知られていないので、改めて紹介したい。

『調査概報』は、『横浜の空襲と戦災』に収録しきれなかった資料を中心に、第一集に「新相模風土記（横浜の巻）」、第二集・第六集・第九集に「横浜市民戦時生活年表」、第三集に戦時資料、第四集に「横浜事件」関係資料、第五集に空襲体験記補遺、第七集に「わが横浜」、第八集に外国資料補遺を収録している。

たとえば第五集の体験記補遺は、一・二編を収録しており、これによって『横浜の空襲と戦災』1体験記編・2市民生活編と合わせて、当時寄せられた体験記の八割以上を掲載したことになる、意義深い。また、第八集の外国資料についても、当時あまり知られていなかった米英の資料を翻訳で紹介し、米軍の略語一覧を掲載するなど、現在

でも利用価値は高い。

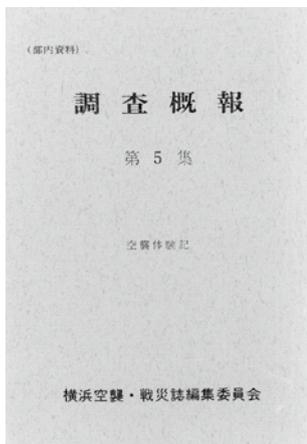
さらに、未定稿ながら戦時生活年表を作成、掲載し、「わが横浜」と題して市内各地区や商店街の概観を紹介しているのも基本情報として貴重である。また、第四集の横浜事件関係資料は、重要な原資料を一冊の資料集としてまとめた意義は大きい。

このように、いずれも貴重な内容を持つ『調査概報』であるが、現実的にはあまり利用されていないように思われる。補遺として貴重な資料が収録されていること自体が、知られていない上に、入手困難で図書館等で閲覧する他ないという現状のためである。

体験記を例に取れば、『横浜の空襲と戦災』1・2を合わせた収録数二七七編に対して、『調査概報』には一・二編と、数の上でも、また内容的にもその重要性は見逃せない。

戦後三〇年の段階で集められた空襲や戦争に関する資料はいずれも、戦後七〇年を経過した現在では一層貴重さを増しており、『調査概報』のさらなる活用を期待したい。

（羽田博昭）



《市史資料室たより》

横浜市史資料室 室内展示コーナー
「兵士たちが生きた時代」

会期：4月中旬～7月中旬
 時間：午前9時30分～午後5時 ◎入場無料
 場所：横浜市西区老松町1番地
 横浜市中央図書館地下1階
 横浜市史資料室室内展示コーナー
 内容：軍隊手帳、日記、手記などを紹介します。

【新刊紹介】

『横浜市史資料室紀要』第6号

¥500【税込】

〈目次〉特集 空襲の記録－証言・写真・米軍資料/第一次大戦末～戦後恐慌期における横浜生糸市場の後退過程/資料紹介 佐藤敬、従軍地からの書簡/在日日系米国人の資料から見る戦前・戦後の日米関係 他

『報告書 昭和40年代の横浜市広報ポスター』

¥500【税込】

〈目次〉第1部昭和40年代の市民広報、第2部『市政概要』にみる昭和40年代の広報
 横浜市史資料室の刊行物は、横浜市役所1階市民情報センター、横浜市中央図書館「ふれあいショップのげやま」、横浜開港資料館、横浜市歴史博物館、横浜都市発展記念館で販売しています。



報告書昭和40年代の横浜市広報ポスターの表紙

【寄贈資料】

- 1 小泉光夫様 日本ソフトボール公認審判員証 1件
- 2 篠村恵子様 勲章、図書他 16件
- 3 橋 檀子様 防毒面 1点
- 4 安藤 浩様 『学之友』112号他 6件
- 5 葛城 峻様 NP0らしく並木コミュニティカ「横浜南部の戦争遺跡」資料 一式
- 6 小川恵子様 軍人手牒他 13件
- 7 萩原諄夫様 軍人名簿他 2件
- 8 神谷秀子様 『出征将兵作品集 戦線点描』他 2冊
- 9 西 功雄様 MONTHLY OPERATIONS 他 3件

- 10 小黒日乃様 小黒英夫家資料 41件
- 11 佐藤照彦様 貯蓄債権他 44件
- 12 齊藤義文様 齊藤秀夫家資料 558件
- 13 高橋睦子様 戦時貯蓄債権他 19件

『横浜2015年夏号Vol.49 特集70年目の夏－市民が語り継ぐ戦争体験－』

戦争体験記応募手記・掲載原稿

- 相澤美都江様/相原恒夫様/赤澤輝二様/新敏夫様/天川勝三郎様/飯田恒雄様/飯塚幹彦様/磯野鎮雄様/井上寛子様/岩澤静枝様/牛山照世様/馬見塚安昭様/大石久様/岡正三様/小俣厚様/片岡正様/葛城峻様/金久保二郎様/加山昇子様/川崎展子様/川田安昭様/工藤重治様/小泉保哉様/齊藤恒樹様/榊原富士子様/佐藤和子様/杉島和二郎様/鈴木房子様/鈴木真澄様/周藤香州夫様/千島洋子様/永井輝男様/橋本栄様/橋本美代子様/服部浩夫様/服部勝様/平田恭一様/平野フキ様/平松由美子様/福井昭二様/藤原正二様/古屋節子様/松原勇吉様/松本一雄様/村山退助様/望月達也様/横関政子様/米田栄男様/渡辺正年様 (五十音順)

◇ 休室日のご案内 ◇

4/18日(月)、5/16日(月)、
 6/20日(月)～23日(木)